

第 22 回佐久新校再編実施計画懇話会

日時：令和 6 年 10 月 16 日（水）
午後 6 時から午後 7 時 30 分
会場：長野県佐久合同庁舎講堂

<次 第>

1 開 会

2 挨拶

3 新構成員自己紹介

4 会議事項

(1) 第 21 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめについて

(2) 校地拡張について

(3) 今後のスケジュールについて

(4) 意見交換

5 その他

第 23 回佐久新校再編実施計画懇話会について

【日時】現在調整中

【会場】現在調整中

6 閉 会

佐久新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

○ = 新構成員

区分	氏名	所属等
自治体	1 畠山 啓二	佐久市 副市長
	2 吉岡 道明	佐久市教育委員会 教育長
	3 油井 敏弘	南佐久郡町村教育委員会連絡協議会 会長
産業界	4 坂川 和志	佐久商工会議所 副会頭
	5 渡辺 仁	佐久総合病院 統括院長
	6 白鳥 敬日瑚	マイクロストーン株式会社 代表取締役社長
学識経験者	7 坂江 千寿子	佐久大学 学長
地域	8 廣末 恵子	社会医療法人恵仁会 医師
	9 原 啓明	佐久地域振興局 局長
同窓会	10 吉岡 徹	野沢北高等学校同窓会 会長
	11 長田 芳子	野沢南高等学校同窓会 会長
PTA	12 片桐 美和子	野沢北高等学校PTA 会長
	13 掛川 勉	野沢南高等学校PTA 会長
	14 竹内 由貴	全佐久PTA連合会 会長
学校関係者	15 小林 秀樹	佐久中学校長会 会長
	16 高橋 幸彦	佐久小学校長会 会長
再編対象校	17 ○永井 柊	野沢北高等学校 生徒会長
	18 ○相澤 寛公朗	野沢北高等学校 生徒会副会長
	19 ○岩下 ことい	野沢北高等学校 生徒会副会長
	20 ○土屋 夢萌	野沢南高等学校 生徒会長
	21 ○塩川 那美	野沢南高等学校 生徒会副会長
	22 ○月岡 宏人	野沢南高等学校 生徒会副会長
	23 柳沢 敬	野沢北高等学校 校長
	24 山下 純一	野沢北高等学校 教諭
	25 中村 信秋	野沢南高等学校 校長
	26 臼田 賢治	野沢南高等学校 教諭

事務局

○ = 新事務局員

野沢北高等学校		野沢南高等学校		高校再編推進室	
田中 聡	(教頭)・事務局長	橋爪 俊彦	(全・教頭)・副事務局長	井出 敦	主幹指導主事
山下 純一		清水 徹	(定・教頭)	土橋 邦彦	主任指導主事 (佐久新校担当)
澤田 浩文		臼田 賢治		有坂 清明	主任指導主事 (佐久新校副担当)
赤羽根 弦		林 直孝			
清水 貴弘		成田 明			
		山口 達之			

第 21 回 佐久新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和 6 年 (2024 年) 9 月 5 日 (木) 18 時 00 分～19 時 30 分
場所	長野県佐久合同庁舎 講堂
出席 (敬称略)	畠山啓二、吉岡道明、油井敏弘、坂川和志、渡辺仁、白鳥敬日瑚、坂江千寿子、廣末恵子 原啓明、吉岡徹、長田芳子、片桐美和子、掛川勉、竹内由貴、小林秀樹、高橋幸彦 柳沢敬、山下純一、中村信秋、白田賢治 以上 20 名
傍聴者	21 名 (内報道 2 名 : 信濃毎日新聞、佐久市民新聞)
事務局	野沢北高校 : 田中教頭 (事務局長)、澤田教諭、赤羽根教諭、清水教諭 野沢南高校 : 橋爪教頭 (副事務局長)、清水教頭、林教諭、成田教諭、山口教諭 県教育委員会 : 佐野室長、井出主幹指導主事、土橋主任指導主事
当日資料	次第、第 20 回懇話会まとめ、第 20 回佐久新校再編実施計画懇話会で県教育委員会から示したこと 小諸新校校名募集資料、佐久新校 (仮称) の学校像と学びについて (これまでの経緯と検討事項)

会議事項

- (1) 第 20 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 校地拡幅について
- (3) 新校の学びに関する事務局検討事項について
- (4) 校名選考について (事例紹介)

主な内容(要旨) → 県教委回答 → 事務局回答

- (1) 第 20 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ
資料 1～3 ページについて事務局から説明。質疑、意見なし。
- (2) 校地拡幅について
高校再編推進室から説明。
○校地拡幅の必要性について様々な観点から検討を進め、その結果、地域の皆様の要望に基づき、生徒の安全性確保などの観点から、校地拡幅が必要であるという方向で現在調整に入っている。
 - ・拡幅が必要であるという判断を聞いて、大きく前進した。安全性の確保のためには、歩車分離は必要。
 - ・安心安全を考えて調整してもらっていることに安堵したが、学びのために駐車場やロータリーにバスが入る敷地も必要だと考える。
 - ・野沢北高校、野沢南高校ともに探究的な学びを県下でも先進的に進めている。野沢北高校は、県立高校「未来の学校」構築事業として県で 1 校だけスーパー探究校として指定してもらっている。今後、両校の新しい学びをさらに推進する中で、他の高校や小中高にまたがった繋がりを進めていく必要があり、そのために校地拡幅を実現してもらいたい。
 - ・野沢南高校では、来年度から探究を中心とするコース制を導入予定。探究を進めるにあたり、地域や外部に出る際の生徒の交通手段が大きな課題。校地拡幅が課題解決の一助となる。
 - ・佐久の中で基幹校となる新校が、小中高の一貫的な学びを考えていく上でも拠点となることから校地拡幅は大変ありがたい。
 - ・安全性の確保として、西側田んぼのところから校地に入れるようになるとよい。また、佐久平駅等からバスが運行されると、他の地域に流出する生徒が少なくなると思う。
- (3) 新校の学びに関する事務局検討事項について
別紙資料について事務局から説明。
○新校における設置学科をこれまでは難関大学進学にも対応できる新しい普通科 1 学科として考えてきたが、理数科存続を期待する声等から、理数科の学びを発展させた学科コースの設置も含めて検討していくことについてご意見をもらいたい。
 - ・進学校や理数科に対する子供たちや卒業生の思いは大きい。目標となる理数科や特進学科のようなものがあつた方がいい。将来的に、中学生の時から大学進学を目指している生徒を集めていくことも地域として必要ではないか。また、新校の学びについて、小中学校の先生たちを含めもっと説明していく必要がある。

- ・探究的な学びを小中高と繋がってできるような学校づくりをしてほしい。佐久地域の将来を担い、牽引していく子供たちを育てる学校であるために、新校の特長を、それも他と違う尖った特長を早く示していく必要がある。
- ・探究的な学びを進める中心校として、小中高を繋ぐフラッグシップのような役割を果たしてもらいたい。「楽しく学ぶ」「自分で求めて学ぶ」学習への転換が図れるようにしてもらいたい。
- ・現在、地域においても人材不足。新校で学び、難関大学に進学し、そしてまた佐久に帰ってきてほしい。優秀な生徒たちを数多く育てることができるような学校にってもらいたい。
- ・佐久は学びの里というか、大きなイノベーション的なものができる可能性が非常に高い地域。その中で、理数科のような存在はとても重要。この地域で一貫してできるSTEAM教育をしながら、徹底的に尖らせていくことが重要と感じる。まずは統合し、将来的には新校が小中高一貫校になっていくことも構想に入れてもらいたい。
- ・大きな枠組みの中で、理数科があってもいいし、いろんな科があってもいいが、ただそれだけをやるのではなく、自分たちの専門性をどう考え、どう繋げていくのかというところまでできる高校があると非常に魅力的。だから理数科はあってもいいが、理数が得意だからということではなく、理数科が世の中にどういった意味を持っているのか、他の専門性とどういった関係があるのかまで含め考えていけるとよい。

【質疑】

- ・STEAM教育とは何か、DXハイスクールとはどんなことか。
→STEAM教育とは英語の頭文字一つずつを取ったもので、Sがサイエンス、Tがテクノロジー、Eがエンジニアリング、Aがアート、Mがマスマティクス。これは文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決、社会的な価値の創造に結び付けていくこと。文部科学省では、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進している。
DXハイスクールとは、文部科学省の「高等学校DX加速化推進事業」として、情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断的な探究的な学びを強化する学校に対して、必要な環境整備の経費を支援する事業のこと。
進学型単位制とは、生徒の進路希望に合わせて興味関心のある科目が選択できる環境を整え、個別最適な学びを実現する方法。

(4) 校名選考について（事例紹介）

資料4～6ページについて高校再編推進室から説明。

【質疑】

- ・佐久新校の校名決定の手順について、事例と同じような手順と理解してよいか。
→事例を参考にしながら懇話会で決めていくが、同じような手順となる。
- ・校名や校歌に関する部会を懇話会の中に作るのか。
→そこについては決まりがないので、懇話会の中で決めていく。ただその原案は事務局で作成する。
- ・校名決定は、公募の応募数が多いから決めるという単純なものではないと理解していいか。
→その通り。

(5) その他

- ・新校の学びの全体像やコンセプトをどのタイミングで決めていくのかスケジュールを聞きたい。
→スケジュールは具体的に決まっていない。早急に事務局と話を詰め、スケジュールについて構成員の皆さんにお示しする。

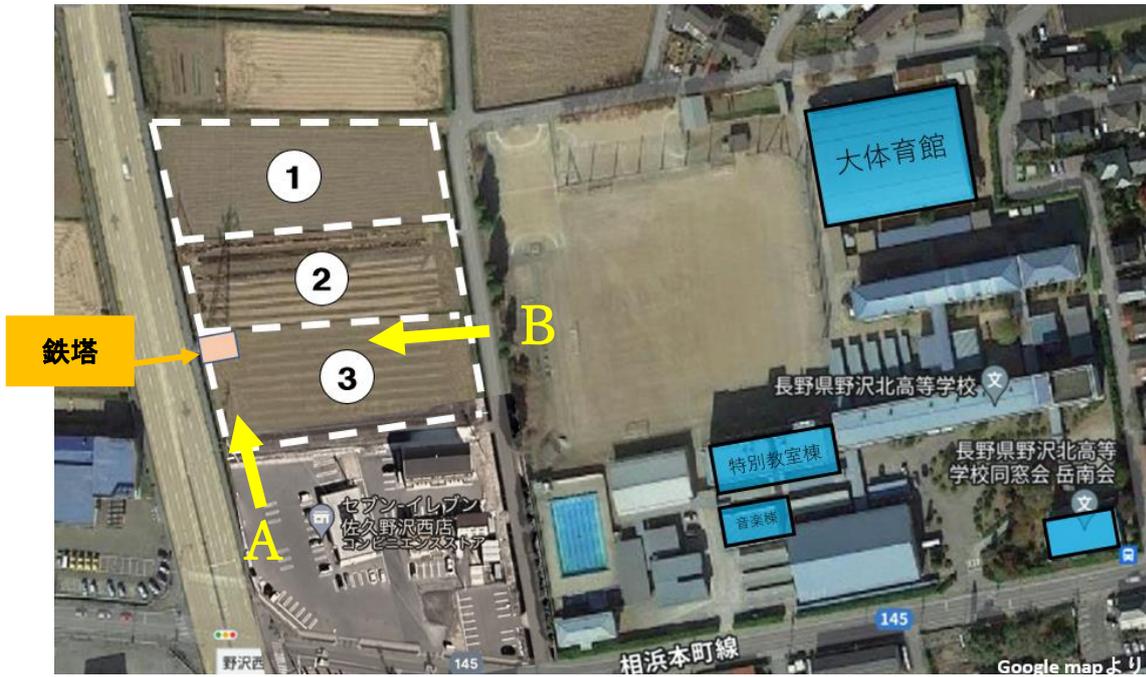
その他

【次回】第22回懇話会

日程：令和6年10月上旬の実施で調整

内容：現在検討中

校地拡幅場所について



A方向から見た鉄塔



B方向から見た鉄塔



佐久新校 統合について（イメージ）

	佐久新校	野沢北高校		野沢南高校
R6年度 (2024年度)		野沢北 (R4入学)	4年	野沢南・定時制 (R3入学)
		野沢北 (R5入学)	3年	野沢南・全日制 (R4入学)
		野沢北 (R6入学)	2年	野沢南・全日制 (R5入学)
		野沢北 (R6入学)	1年	野沢南・全日制 (R6入学)
R7年度 (2025年度)		野沢北 (R5入学)	4年	野沢南・定時制 (R4入学)
		野沢北 (R6入学)	3年	野沢南・全日制 (R5入学)
		野沢北 (R7入学)	2年	野沢南・全日制 (R6入学)
		野沢北 (R7入学)	1年	野沢南・全日制 (R7入学)
R8年度 (2026年度)		野沢北 (R6入学)	4年	野沢南・定時制 (R5入学)
		野沢北 (R7入学)	3年	野沢南・全日制 (R6入学)
		野沢北 (R8入学)	2年	野沢南・全日制 (R7入学)
		野沢北 (R8入学)	1年	野沢南・全日制 (R8入学)
R9年度 (2027年度)		野沢北 (R7入学)	4年	野沢南・定時制 (R6入学)
		野沢北 (R8入学)	3年	野沢南・全日制 (R7入学)
		野沢北 (R9入学)	2年	野沢南・全日制 (R8入学)
		野沢北 (R9入学)	1年	野沢南・全日制 (R9入学)
R10年度 (2028年度)		野沢北 (R8入学)	4年	野沢南・定時制 (R7入学)
		野沢北 (R9入学)	3年	野沢南・全日制 (R8入学)
		野沢北 (R10入学)	2年	野沢南・全日制 (R9入学)
		野沢北 (R10入学)	1年	野沢南・全日制 (R10入学)
開校				
佐久新校開校（全日制：年次統合） 野沢北高校・野沢南高校全日制は募集停止				
R11年度 (2029年度)	佐久新校 (R11入学)	野沢北 (R9入学)	4年	野沢南・定時制 (R8入学)
		野沢北 (R10入学)	3年	野沢南・全日制 (R9入学)
		野沢北 (R10入学)	2年	野沢南・全日制 (R10入学)
			1年	野沢南・定時制 (R11入学)
年度末に野沢北高校・野沢南高校は閉校				
R12年度 (2030年度)	佐久新校 (R11入学)	野沢北 (R10入学)	4年	野沢南・定時制 (R9入学)
	佐久新校 (R12入学)		3年	野沢南・全日制 (R10入学)
			2年	野沢南・定時制 (R11入学)
			1年	野沢南・定時制 (R12入学)
佐久新校は統合完了				
R13年度 (2031年度)	佐久新校 (R11入学)	佐久新校・定時制 (R10入学)	4年	
	佐久新校 (R12入学)	佐久新校・定時制 (R11入学)	3年	
	佐久新校 (R13入学)	佐久新校・定時制 (R12入学)	2年	
	佐久新校 (R13入学)	佐久新校・定時制 (R13入学)	1年	

佐久新校 開校までのスケジュール（令和6年10月現在）

	R6年度 2024年度	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
県議会						
教育委員会		●設置学科変更を承認	●校名の決定		●校名の正式決定 ●募集学級数の決定	
懇話会		校名募集要項 校名募集・選考・決定	校名募集要項 校名募集・選考・決定	校歌・校章の提示		
		学びに関する意見交換	教育課程案の提示			
		各ワーキンググループ（WG）の進捗状況報告と意見交換				
校名	校名募集要項策定	校名募集	校名選考 一次選考・二次選考	校名決定		
校歌・校章			校章制作期間 6～12カ月 校歌作曲期間 6～12カ月	決定 決定		
教育課程	設置学科・ 学びのイメージ検討	教育課程の検討（WG） ・単位制 ・ 2 学期制 or 3 学期制 ・ 日課の検討（週32時間など） ・探究学習への取り組み ・ 必修科目（単位数の検討と決定） ・学校が定める必修科目（科目、単位数の検討と決定） ・選択科目（科目、単位数の検討と決定） など		教育課程の決定		
総務		検討事項 [教務関係] ・ 在校生の学習保証 ・ 入学者選抜への対応 ・ 内規の整理 ・ 校則の整理 [各WG] [生徒会関係] ・ 制服・ジャージの検討 ・ クラブ活動（クラブの整理と活動場所の確保） ・ 生徒会組織の検討 ・ 生徒会則の整理 ・ 生徒会計の整理 [PTA関係] ・ PTA組織の検討 ・ PTA会計の整理				
		[引越し関係] ・ 備品等の要否確認 ・ 引越しの予算確保とコミュニケーション →引越し関係は前年				
広報		HP等での発信	地域説明会の実施	ステークホルダーへの広報		
		小中学校への広報活動	中学生への広報強化			

ワーキンググループ（WG）

佐久新校(仮称)について

「高い志の進路を実現し、地域・日本・世界に貢献する人を育む」
地域の核となる学校をつくります。

①『夢のある未来社会を地域と共創する「知」の探究校』として 佐久の進学校を創ります。

長野県教育委員会の県立高校の再編・整備計画により、野沢北高校と野沢南高校が再編統合し、佐久市内の全日制普通科高校は3校から2校になります。

佐久新校(仮称)では、生徒それぞれが希望する進路(難関大学・学部進学を含む)を実現出来るように考えています。現在の野沢北高と野沢南高が一緒になって学ぶと考えておられる方がいますが、そうではなく、両校が誇るOB、OGと探究活動を支えていただくコンソーシアムなど現在の知的財産を引き継ぎ、新しい高校を創ろうと考えています。

全日制と定時制が設置される予定です。

②野沢北高校の校地に新校舎が建ちます。

新校舎の建設に向けて、現在、長野県スクールデザイン(NSD)プロジェクトが進行中です。

3期に分けて建設工事を行うことで、在校生は第1期工事が完了した時点で新校舎に移り、学習を継続する予定です。

③野沢北高校と野沢南高校は年次統合となります。(全日制)

年次統合とは下のようなイメージです。

それぞれの学校に入学した生徒は、それぞれの学校で卒業します。

令和11年度から新校生徒の募集が始まる予定です。

	野沢北高校 校地	野沢南高校 校地
令和10年度	野沢北1・2・3年生	野沢南1・2・3年生
令和11年度	野沢北募集停止 野沢北2・3年生 新校1年生	野沢南募集停止 野沢南2・3年生
令和12年度	新校1・2年生 野沢北3年生	野沢南3年生
	令和13年3月 野沢北と野沢南は最後の卒業生を出し、両校とも閉校となります	
令和13年度	新校1・2・3年生 統合完成	

長野県教育委員会再編・整備計画【三次】により、野沢南高校定時制は、佐久新校(仮称)定時制に移管されます。正式な移管時期は今後発表されます。

④理数科・普通科を発展させた学びを考えています。

佐久地域で高い評価を得ている理数科を引き継ぐ形の学科・コースも考慮に入れ、「語学の力を十分につけ、文科系だけれど、もっと数学・理科を、理科系だけれど、もっと古典や歴史を。」そんな生徒の希望・社会の要望に応え、文系理系と言った垣根を越えて、進学時だけでなく、その先も見据えた学びが可能となる学科を考えています。

学科の正式名称は現在検討中です。

佐久新校（仮称）についてのQ & A

Q 1 野沢北高校と野沢南高校の再編でどのような学校ができますか。

- A 1 野沢北高校、野沢南高校、両校に通う生徒を合わせて1つの学校にする合併ではありません。
令和2年、長野県教育委員会「高校改革～夢に挑戦する学び～」再編・整備計画【一次】により、野沢北高校と野沢南高校が再編統合し、佐久市内の全日制普通科高校は3校から2校になります。
佐久新校（仮称）における学びのイメージは長野県教育委員会HPで発表されているとおり、『夢のある未来社会を地域と共創する「知」の探究校』を目指した進学校を創ります。
これまで通り、進路実現もクラブ活動も出来る文武両道の学校を目指しています。
現在の野沢北高校の校地に新校が建設されます。

Q 2 令和11年度の入学生は佐久新校（仮称）の卒業生となるとして、9年度、10年度の入学生の扱いはどうなりますか。

- A 2 全日制の統合方法は、年次統合となります。
令和9年度、令和10年度入学生は、それぞれが入学した高校で学習し、それぞれの高校での卒業生となります。次のようなイメージとなります。

	野沢北高校 校地	野沢南高校 校地
令和10年度	野沢北1・2・3年生	野沢南1・2・3年生
令和11年度	野沢北募集停止 野沢北2・3年生 新校1年生	野沢南募集停止 野沢南2・3年生
令和12年度	新校1・2年生 野沢北3年生	野沢南3年生
	令和13年3月 野沢北と野沢南は最後の卒業生を出し、両校とも閉校となります	
令和13年度	新校1・2・3年生 統合完成	

長野県教育委員会再編・整備計画【三次】により、野沢南高校定時制は、「佐久新校（仮称）定時制」に移管されます。正式な移管時期は今後発表されます。

Q 3 佐久新校（仮称）の学びはどうなりますか。

- A 3 文系理系にとらわれないリベラルアーツ的な学び、探究を核としたダイナミックな学び、大学・研究機関・企業・自治体等と協働した学びを実現しようと考えています。
また、生徒ひとり一人の「個別最適な学び」を実現させる一つの方法として、希望する進路・興味・関心に応じて科目選択の幅を広げる進学重視型単位制の導入を考えています。両校が誇るOB・OGと探究活動を支えていただくコンソーシアムなど現在の知的財産を引き継ぎ、新しい学びを創ります。
令和6年度、野沢北高校が文部科学省のDXハイスクール事業に採択され、3Dプリンタ・動作解析カメラ・ソフトウェア・映像遅延装置など、新しい機材が導入されました。現在、数理・データサイエンス・AI等を活用した学びや探究活動・課題研究活動ができるように機器の充実を計画しています。これらの機材を引き継いで、新たな学びを創造します。
これまで同様に探究的手法（疑問を大切にし、コミュニケーション能力・発信力を高め、未知なるものに挑戦する気概を持たせること）を大切に授業を行います。

Q 4 進学重視型単位制とはどのようなものですか。

A 4 新校には、全日制と定時制が置かれます。全日制では、設定している科目はすべて進学を意識して展開（進学型）します。1年次は必修科目を中心に学習します。2年次から選択の幅を広げて、各自に適した科目を選択し、学習します。3年次は単位制の利点を活かして、各自の希望進路に合わせて、選択できる科目が多くなります。どの様に選択していくか、丁寧なガイダンスを行います。

一般的な「単位制」とは違い、「進学に伴う科目を生徒に選びやすくする」ためのもので、導入により、選択する科目の幅が広がり、生徒の希望進路に合わせて科目選択することや興味・関心のある科目が選択できる環境が整います。生徒ひとり一人の「個別最適な学び」を実現する一つの方法と考えています。大学と連携した学びや発展的な授業、個人研究の設定等も可能と考えます。

県内では、須坂高校・長野高校・屋代高校・松本県ヶ丘高校・松本深志高校などが導入しています。

Q 5 現在の野沢北高校の理数科はどうなりますか。

A 5 佐久地域で高い評価を得ている理数科を発展させた学科・コースの設置も含めて、佐久新校（仮称）での学科を検討しています。理数科・普通科をさらに発展させた学びを考えています。正式な学科名は今後検討されます。

Q 6 留学の扱いはどうなりますか。

A 6 留学はこれまでもありましたが、留年することなく行うことが可能です。

文部科学省の平成22年4月1日付22教高号外教育長通知による「高校生の海外留学の取り扱いについて」に従っています。

また、県のプロジェクトを利用した短期留学や学校独自の短期留学プログラムも考えています。

Q 7 どのような学力層の生徒を募集するのですか。

A 7 目指す学校像や学びを考えて、自分の希望する進路に合わせて進学できるように考えていますので、ある程度学力を持った生徒を想定しています。佐久地域の進学校を目指しています。

Q 8 佐久新校（仮称）のボーダーラインはどのくらいを想定していますか。

A 8 具体的に何点という言い方は出来ませんが、佐久新校（仮称）の目指す学校像や学びに照らして生徒を募集します。

Q 9 新校の定時制はどのような位置づけですか。

A 9 「高校改革～夢に挑戦する学び～」再編・整備計画【三次】により、野沢南高校定時制は、「佐久新校（仮称）定時制」に移管することになりました。

また、小諸商業定時制を「小諸新校（仮称）定時制」に移管した後、東御清翔高校夜間部の設置時期を考慮しながら佐久新校（仮称）定時制に集約することとなりました。

Q10 最寄り駅からのアクセスはどうなりますか。（中込駅から、佐久平駅から）

A10 通学の利便性・安全性については、懇話会でも度々話題に上がっています。

特に、中込駅・佐久平駅からの通学の利便性向上の要望が出されており、今後、両校、県教育委員会、自治体等の関係者が協力して検討していくことになります。

Q11 校名はどうなりますか。校名の募集はどのように行われますか。

A11 校名については、その募集方法も含めて、現在検討中です。

Q12 どんな校舎になりますか。

A12 野沢北高校の校地に新校が建設されます。

校舎については令和5年9月30日のプロポーザルによって、SALHAUS・ガド建築設計事務所共同体が選ばれました。現在、新校舎の整備計画策定のパートナーとして新校の学びを実現できるよう NSD（長野県スクールデザイン）プロジェクトにより計画を進めています。

また、工期を分けて建設工事を行うことで、野沢北高校の生徒と佐久新校（仮称）の生徒が、段階的に移れるよう、建設計画が工夫されています。